

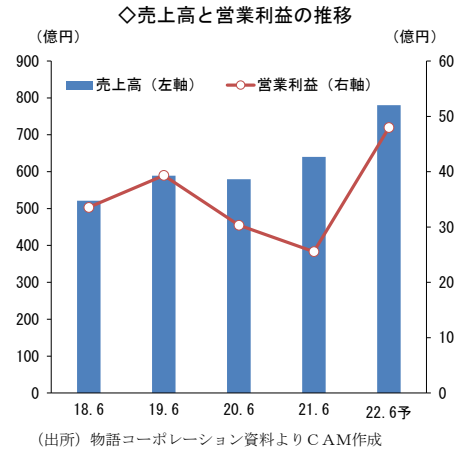
企業ニュース 物語コーポレーション

(東証1部: 3097) <http://www.monogatari.co.jp/>

作成者: 高見澤晶子

「焼肉きんぐ」などを展開する外食チェーン

郊外ロードサイドを中心に「焼肉きんぐ」「丸源ラーメン」などを展開する外食チェーン。21.6期末のグループ店舗数は584店。同期の部門別売上高構成比は、焼肉51%、ラーメン15%、お好み焼き3%、ゆず庵(寿司・しゃぶしゃぶ)18%、専門店2%、フランチャイズ7%、その他4%。主力の焼肉きんぐはテーブルオーダー形式で2,680円、2,980円、3,980円の食べ放題メニューをメインに提供。手ごろな価格で焼肉を楽しめるとファミリー層を中心に人気を集めている。22.6~25.6期中期経営計画では、既存ブランドの事業拡大や新業態の開発・育成、アジアでの積極展開などにより、最終年度に連結売上高1,000億円の達成を目指す。



22.6期は積極的な出店で増収増益を目指す

21.6期の連結業績は、売上高が640億円、前期比10%増、営業利益が26億円、同16%減。売上高は焼肉きんぐの既存店増収と各業態の新規出店効果、海外事業の好調で増収。営業利益は将来の成長に向けた積極的な出店、改装を計画通りに進めたため減益。売上高、営業利益ともに計画未達、下期(1-6月)の緊急事態宣言発令、延長による営業制限の影響が想定以上だった。なお、経常利益と当期利益は、営業時間短縮に係る感染拡大防止協力金を計上したため前期比増益となり、おおむね計画線で着地した。

22.6期の通期会社計画は、売上高が780億円、前期比22%増、営業利益が48億円、同88%増。主力業態を中心とした積極的な出店、既存店の改装、商品力やサービス力の向上に取り組み増収増益を目指す。新規出店は69店舗を予定、焼肉部門(24店)、ラーメン部門(24店)が中心。また、既存店売上高は同10%増を想定。7月の既存店売上高は前年同月比8%減と営業制限の影響で力強さに欠けるが、6月の同22%減からは改善傾向。営業制限の解除後はこれまでの出店・改装効果により早期の売上回復が期待できよう。

【株価動向・投資判断】

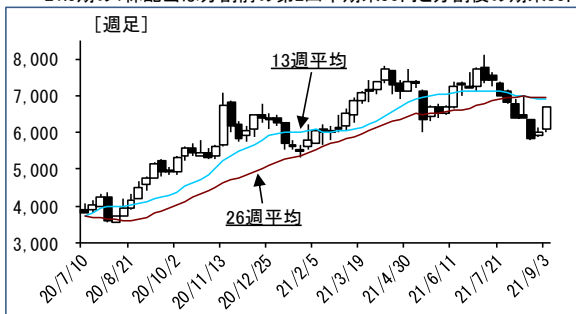
積極的な出店や海外展開により、成長が期待できる外食チェーンとして注目したい。

<3097 物語コーポ 業績: 日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
20.6	57,960 (▲2)	3,033 (▲23)	3,028 (▲35)	456 (▲84)	37.9	95.00
21.6	64,018 (10)	2,555 (▲16)	4,265 (41)	2,727 (497)	226.1	85.00
22.6 予	78,037 (22)	4,798 (88)	5,500 (29)	3,376 (24)	279.9	65.00

(注) 2021年3月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施、前会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株利益を算出。21.6期の1株配当は分割前の第2四半期末50円と分割後の期末35円の合計。



【主要株価指標】 (売買単位: 100株)	
株価 (2021/9/3)	6,670 円
年初来高値 (高値日)	8,100 円 (21/7/6)
同 安値 (安値日)	5,330 円 (21/1/18)
予想 P E R (22.6 予)	23.8 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	1,625.3 円
P B R	4.10 倍
予想配当利回り	0.97 %
(1株当たり配当金 65.00円)	
R O E (21.6)	14.7 %
発行済み株式数	1,207 万株